

平成29年度 学校評価総括表 伊丹市立桜台小学校

		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進。②豊かな人間性を育てる心の教育の推進。③健やかな体の育成と、健全な食生活の推進。④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実。⑤教育環境の整備と学校安全の充実。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回以上のさくらタイム(放課後学習)・朝学習で、定期的に学力補充を進める。 ・漢字の小テスト、算数のふり返りテストを定期的実施する。 ・全ての教員が授業を公開しあう事で授業力を高め、授業研究を伴う校内研修を年3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程部を中心に朝学習・えんびつタイム・さくらタイムを計画的に実施し、学力補充に努める。 ・漢字小テスト、算数振り返り小テストの充実を図る。 ・年3回の校内研修を実施する。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習・えんびつタイム・さくらタイム(放課後学習)を通して、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数部・国語部を中心に評価テストの見直しを行い、学力保障に努めた。 ・研究推進担当を中心に、合計6回の研究授業を行い、授業力向上に努めた。 ・「授業は分かりやすい」と答えた児童は5、6年生とも88%となった。 ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識して授業を組み立てることにより、わかる授業に近づけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き朝学習・えんびつタイム・さくらタイムを充実させ、学習に不安のある児童と向き合う時間を増やしていく。 ・研究推進担当を中心に授業力・学級経営力の向上を図れるような研修を計画的に進める。 ・さくらタイムを定期的実施できるように計画する。 	子どもたちの基礎的な学力の定着に引き続き尽力願いたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、グループや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。 ・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書週間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや授業の振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。 ・授業の展開に話し合いの場面を設定する。 ・児童アンケート「本をたくさん読んでいますか」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が80%以上になる。また、保護者アンケートの「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のふり返りができる時間を確保して、考えを深めることができた。 ・グループ活動を有効に取り入れる方法を考え、主体的に学習できる場を作れるように努めた。 ・読書週間、朝読書、市の図書館からの貸し出しなど読書指導に努め、本の好きな子どもは多い。しかし、1週間に1時間以上本を読んでいると回答した子どもは60%にとどまっている。また、保護者も「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が60%を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの有効な活用を図るとともに、さらに児童間で活発に学習が進められるようにグループ活動の充実にも努めていく。 ・朝読書の充実、読書週間の増加、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りに努めていく。 	中学校の朝読書の取組を参考に、本に親しむ習慣をつけていただきたい。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板や実物投影機等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。 ・さくらノートの活用や、家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。 ・電子黒板、実物投影機を多くのクラスに導入する事で、活用しやすい環境を作る。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は教え方に工夫している」と答えた児童は90%を超えている。 ・すぐにICT機器が使える環境が整い、積極的に利用して授業を展開している。 ・家庭学習の時間については、低・中学年は目標時間を達成しているが、高学年においては目標時間に満たず、課題の出し方や家庭への呼びかけに課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらにICT機器の活用に努める。 ・家庭学習については、保護者のサインの徹底を呼びかけると同時に、課題の内容の充実に努めていく。 	家庭への啓発は継続することが肝要であると考えます。

	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート「1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行うと回答した教員が90%を超えている。 ・「自分を大切にすることや他人への思いやりについて教えてもらっていると」答えた児童は90%以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。 	<p>中学校との連携を引き続き緊密にとっていただきたい。</p>
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業をはじめ、いろいろな場で違いを大切にしたい児童理解に努め、違いを認めあえる子どもを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。 ・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。 ・インクルーシブ教育の推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「クラスで、命を大切にすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。 ・教師アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している。」と回答した割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答した児童は85%であった。児童会や他の委員会が積極的にあいさつ運動を行った。 ・「命を大切にすること、いじめやいたずらされた人の気持ちを考えています」と回答した児童は、90%以上であった。 ・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し、教師アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は85%を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、あいさつの大切さを提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。 ・アンケートの結果や児童の様子を注意深く観察して、児童理解に努める。 	<p>学校が指導することと家庭が指導することを明確にする必要がある。</p>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。 ・冬期の業間休みに週一回耐寒訓練を実施する。 ・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの伊丹市の目標指数100(県平均)を超える。 ・冬期の業間休みの耐寒訓練の実施計画を立て、行う。 ・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は今年、スポーツテストの目標指数を超えた。 ・「運動能力や体力の向上を図り、根強い児童の育成に努めた」と回答する教員は85%を超えている ・児童は、進んで耐寒訓練に参加することができた。 ・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答した割合は80%以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの結果を踏まえ、さらに運動能力や体力の向上について取り組んでいく。 	<p>スポーツテストの分析を進め、体力向上に取り組んでいただきたい。</p>

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・色々な機会をとおして、積極的に学校情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを定期的に更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに答えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信(学校だより)の発行、ホームページの更新は十分にできたと考える。「情報を十分に発信している」と回答した保護者は90%以上であった。 ・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」と回答した保護者は95%であった。 ・「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者は90%であった。 ・保護者アンケートの「学校は、保護者や地域と連携し、教育活動を進めている」と回答した割合は90%を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。 	学校発信だけでなく、PTAやコミュニティスクールと連携した情報発信が有効であると考えます。

学校関係者評価総括

今後も、安全・安心を第一に、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をお願いしたい。学校がすべきことと保護者がすべきことを明確にし、さらに、学校と地域・保護者の連携が深まることを望む。

次年度に向けた重点的な改善点

算数科を中心に、「分かる授業」の創造と、基礎基本の定着を図るための手立てを構築し、学力の向上を目指す。また、家庭と連携して家庭学習習慣、読書習慣の定着を図る。